

【港 KOBE・Mt.六甲トレイルランニングレースの開催について】

港 KOBE・Mt.六甲トレイルランニングレースについて、今年度の開催は見送ることになりました。

多くの方から、発表はいつですか！ とのお問い合わせをいただき、本当にありがとうございます。 待ち望んでいただけると、本当に嬉しく思います。 また、スケジュールを空けていただいていた方、本当に申し訳ありません。

今年度開催を見送った大きな理由は、関西でもレースが増えてきたことと、TRAIL を走る人が増えてきたことがあります。 それはどちらも嬉しいことです。

今大会はトレイルランニングの普及と言う観点から、大会の開催に携わらせていただきました。

ハイカー・観光客も多い都市型の TRAIL コースでの開催には、神戸市の後援をはじめ、多くのボランティアの方、また大会をの趣旨を理解した上でマナー・ルールをしっかり守ってご参加いただいたランナー、すべての方の理解とご協力があった開催でした。

トレイルランニングレースはロードレースと違って、場所を完全独占することができないところにも課題があります。

山の細い1本道を、多くの方に配慮した上で大会やイベントを開催しなければいけません。

六甲山のような都市に近いトレイルでは、それらの配慮をするには十分過ぎても安全を確保することが困難です。

港 KOBE・Mt.六甲トレイルランニングレースは「安心」して楽しんでいただくための準備をしました。

それらを多くの方が理解して参加、運営それぞれの立場で行動していただいたくれたからこそ、スムーズな運営ができたと思っています。

ようやく、関西でもトレイルランニングレースが増えてきたようです。 また小さな草レース的なイベントも増えてきました。

山に近い関西の流れのような気がします。

それらの流れも踏まえて、あえて大会をお休みするということも選択と考えました。

決して、ネガティブな観点では無いことをご理解ください。

港 KOBE・Mt.六甲トレイルランニングレースが、トレイルランニングをはじめるひとつのきっかけとなり、多くの方との携わりを共有できたことは、意義があったと思っています。

開催を楽しみにしていただいた方には本当に申し訳無く思います。

また、2回の開催に本当にたくさんの方のお力をいただいたこと、改めて感謝します。

トレイルランニング

ようやく、世間でも認知される遊びとなってきました。

トレイル＝山は多くの人と共存する場です。走る側は常に歩く人を配慮した上で楽しむ。そんなことを繰り返していくことで、トレイルランニングが文化として根付いていくと思っています。

また、来年以降の開催に向けて、トレイル＝山で皆さんとお会いできればと思います。

本当にありがとうございます。

港 KOBE・六甲トレイルランニングレース実行委員会

永瀬 良輔

三浦 誠司